1階の屋根部分まで浸水した小学校の職員室で、土砂にまみれた災害ごみなどの搬出に尽力した（7月22日、熊本県球磨村で）

被害のあった老人ホーム内の整理に当たる隊員たち（24日、同）

検温や体調チェックなどを徹底し、現場へ

水を含んで重くなった土砂を手作業で運び出した（23日、同）

重機を用い、生活道路に流入した土砂を取り除く（18日、同）

「7月豪雨」被災地で懸命の復旧作業

天理教災害救援ひのきしん隊

記録的な豪雨により、九州・中部地方などを中心に甚大な被害をもたらした「令和2年7月豪雨」。各地で河川の氾濫（はんらん）や土砂崩れが相次ぎ、家屋の床上・床下浸水などの住宅被害が多発した。天理教の災害救援組織である「災害救援ひのきしん隊」は、「大雨特別警報」が発令された熊本県球磨（くま）、相良（さがら）の両村から直接要請を受けて出動。マスク着用を徹底するなど、新型コロナウイルス感染拡大防止の対策を講じながら、地域の小学校や老人ホームなどで、土砂の撤去や災害ごみの搬出作業に力を尽くした。

グラフ天理
No.489
2020. 9　発行／天理教道友社